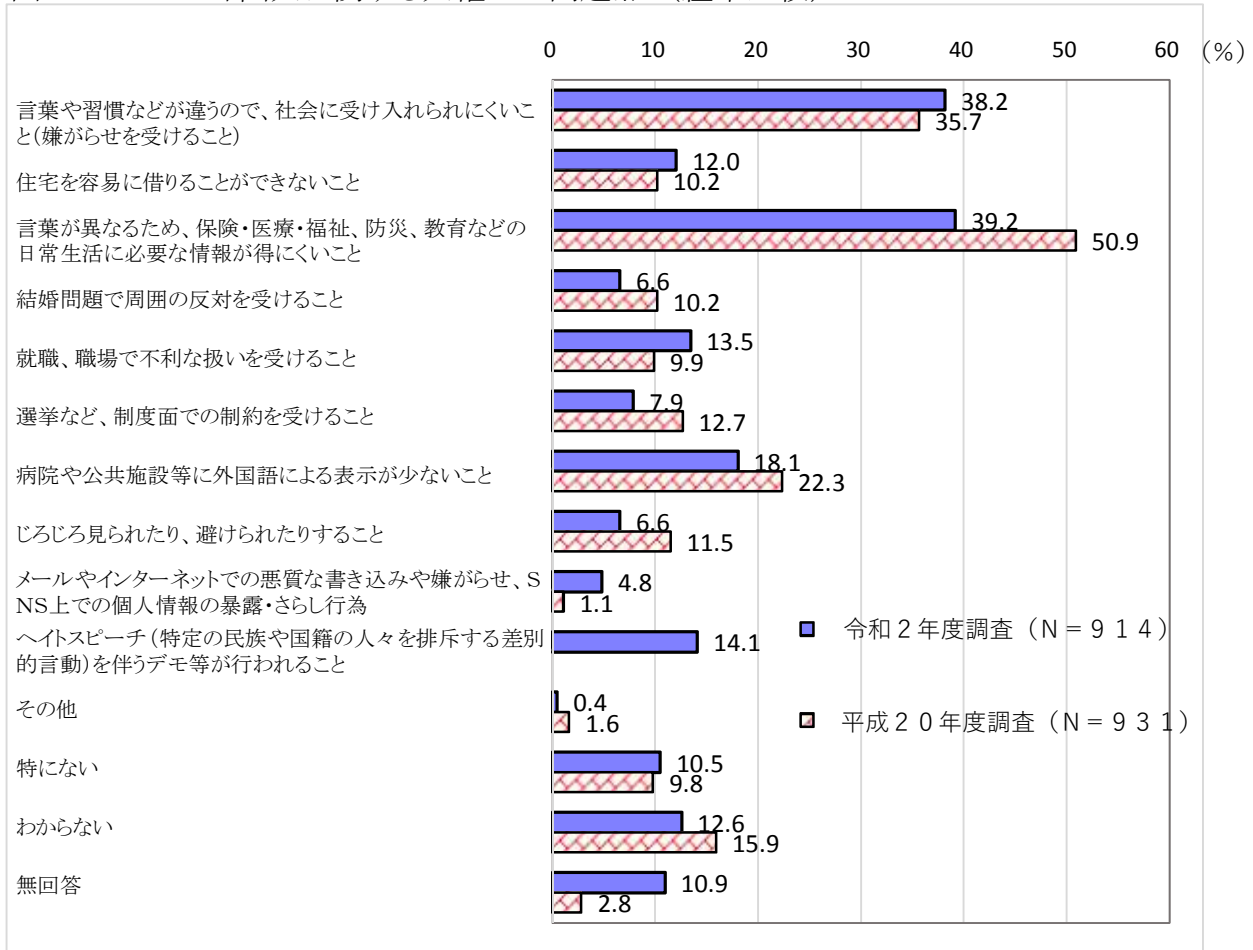


(12) 外国人に関する人権上の問題点と見聞

(ア) 外国人に関する人権上の問題点

問16 あなたは、外国人に関することからで、問題があると思われるのはどのようなことですか。(✓は3つまで)

図16-1-1 外国人に関する人権上の問題点 (経年比較)

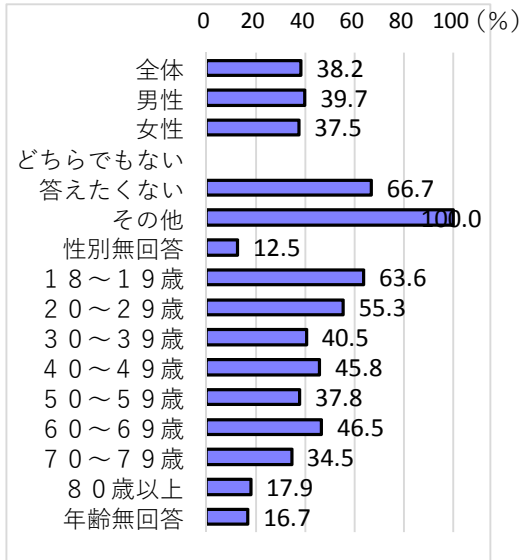


外国人に関する人権問題を尋ねたところ、「言葉が異なるため、保険・医療・福祉、防災、教育などの日常生活に必要な情報が得にくいこと」と答えた人が39.2%で最も高く、次いで、「言葉や習慣などが違うので、社会に受け入れられにくいこと(嫌がらせを受けること)」(38.2%)、「病院や公共施設等に外国語による表示が少ないこと」(18.1%)、「ヘイトスピーチ(特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動)を伴うデモ等が行われること」(14.1%)、「就職、職場で不利な扱いを受けること」(13.5%)と続いている。

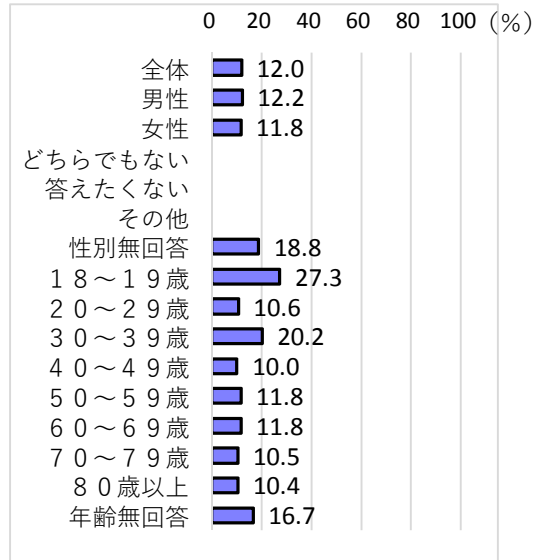
平成20年度調査結果と比較すると、「メールやインターネットでの悪質な書き込みや嫌がらせ、SNS上での個人情報の暴露・さらし行為」は3.7ポイント高く、次いで、「就職、職場で不利な扱いを受けること」が3.6ポイントと高くなっている。

図16-1-2 外国人に関する人権上の問題点 (性・年齢別)

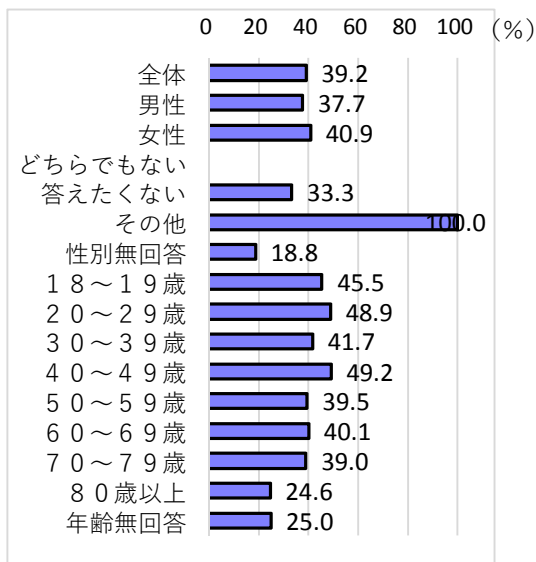
言葉や習慣などが違うので、社会に受け入れられにくいこと(嫌がらせを受けること)



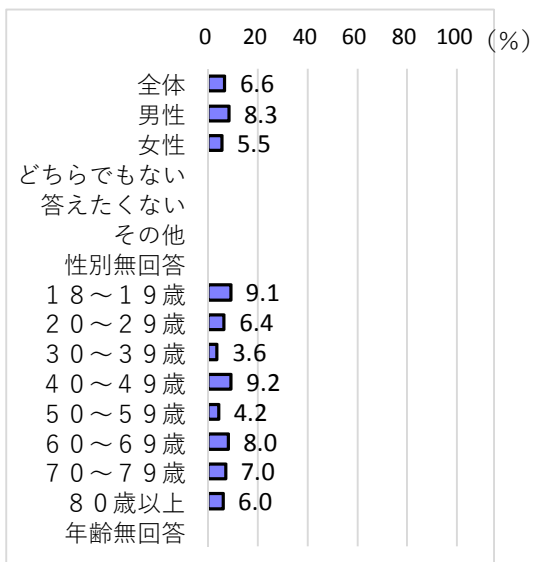
住宅を容易に借りることができないこと



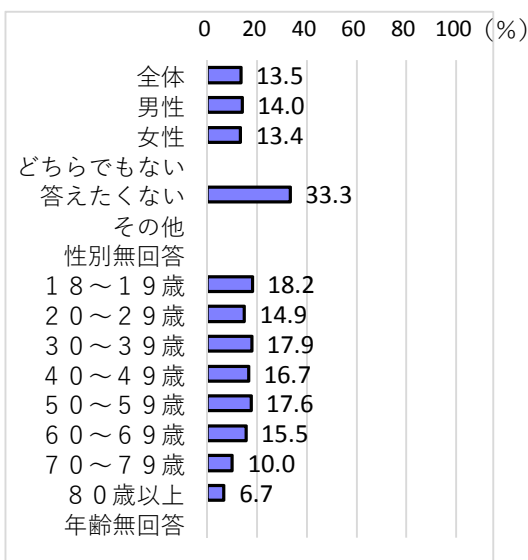
言葉が異なるため、保険・医療・福祉、防災、教育などの日常生活に必要な情報が得にくいこと



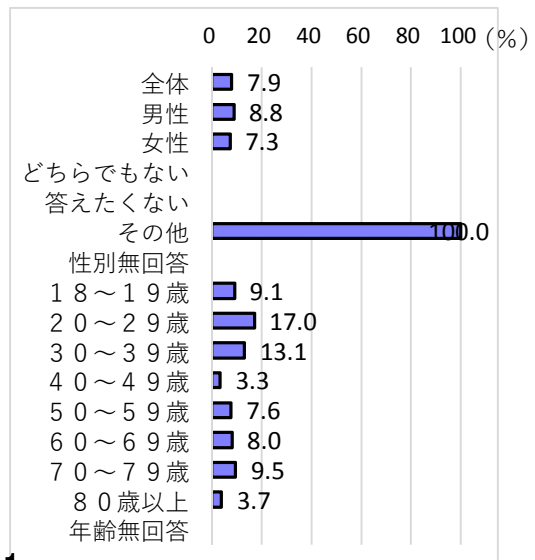
結婚問題で周囲の反対を受けること



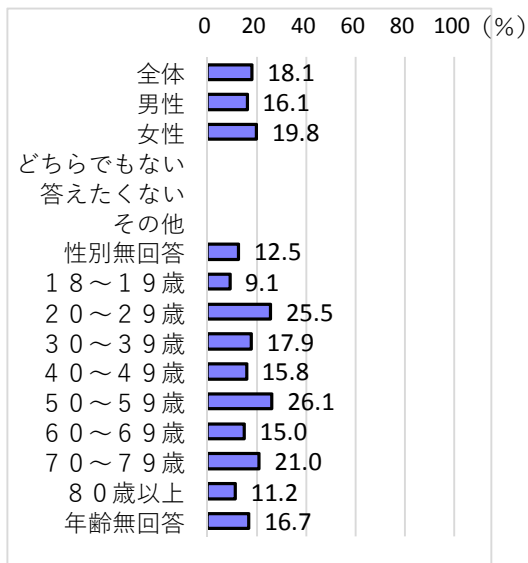
就職、職場で不利な扱いを受けること



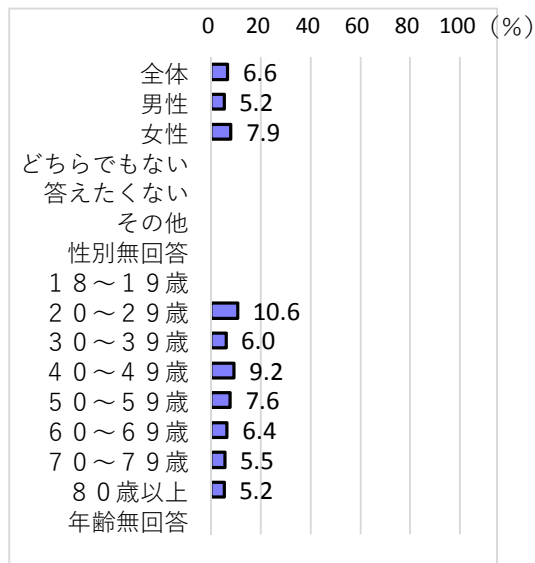
選挙など、制度面での制約を受けること



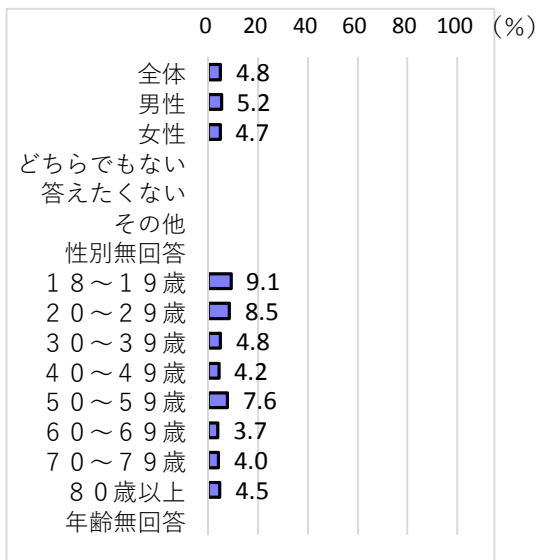
病院や公共施設等に外国語による表示が少ないこと



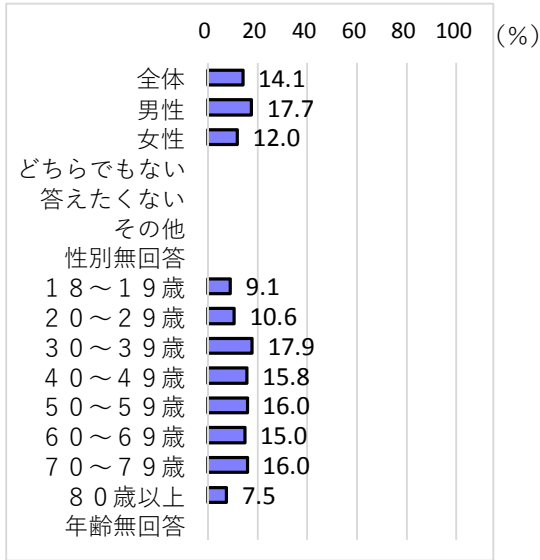
じろじろ見られたり、避けられたりすること



メールやインターネットでの悪質な書き込みや嫌がらせ、SNS上での個人情報の暴露・さらし行為



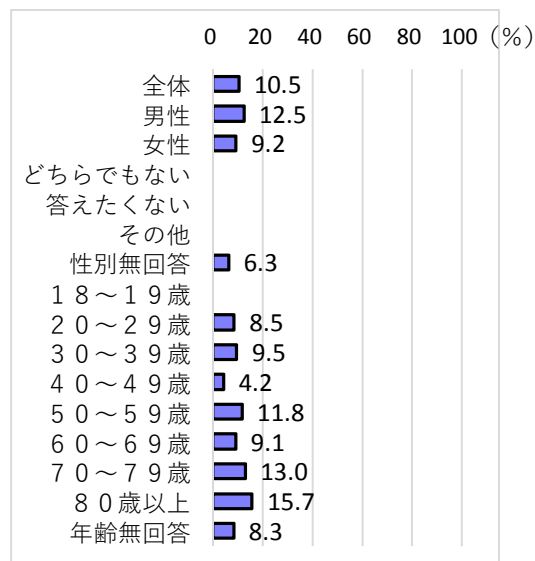
ヘイトスピーチ(特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動)を伴うデモ等が行われること



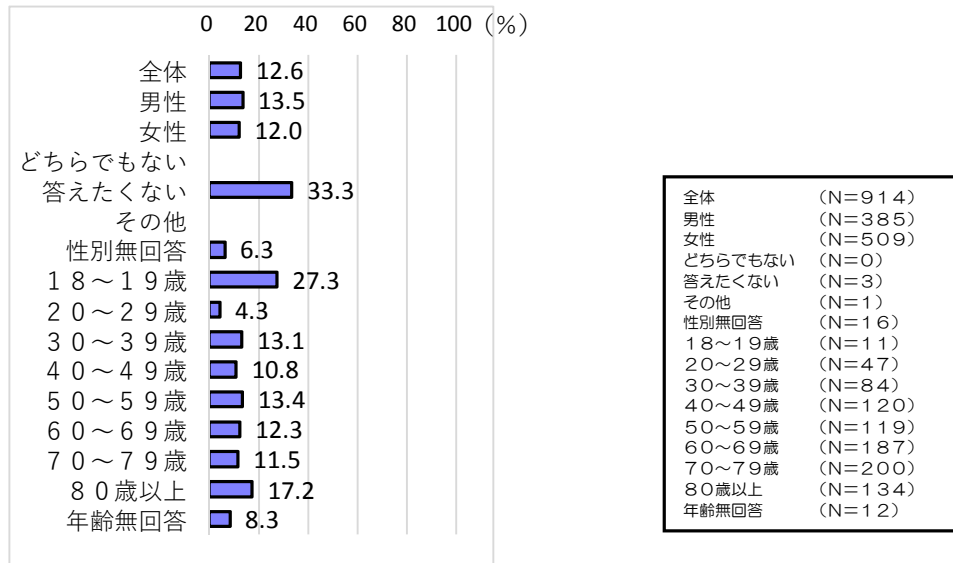
その他



特にない



わからない



外国人に関する人権上の問題点について性別にみると、男性は「言葉や習慣などが違うので、社会に受け入れられにくいこと(嫌がらせを受けること)」(39.7%)、女性は「言葉が異なるため、保険・医療・福祉、防災、教育などの日常生活に必要な情報が得にくいこと」(40.9%)の回答割合が最も高くなっている。また、男性は女性に比べ「ヘイトスピーチ(特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動)を伴うデモ等が行われること」(5.7ポイント差)の回答割合が高く、女性は男性に比べ「病院や公共施設等に外国語による表示が少ないこと」(3.7ポイント差)の回答割合が高くなっている。

年齢別にみると、18歳～29歳、60歳～69歳の年齢で「言葉や習慣などが違うので、社会に受け入れられにくいこと(嫌がらせを受けること)」の回答割合が最も高く、18歳～19歳は63.6%となっている。また、それ以外の年齢では、「言葉が異なるため、保険・医療・福祉、防災、教育などの日常生活に必要な情報が得にくいこと」の回答割合が最も高くなっている。

その他



特にない

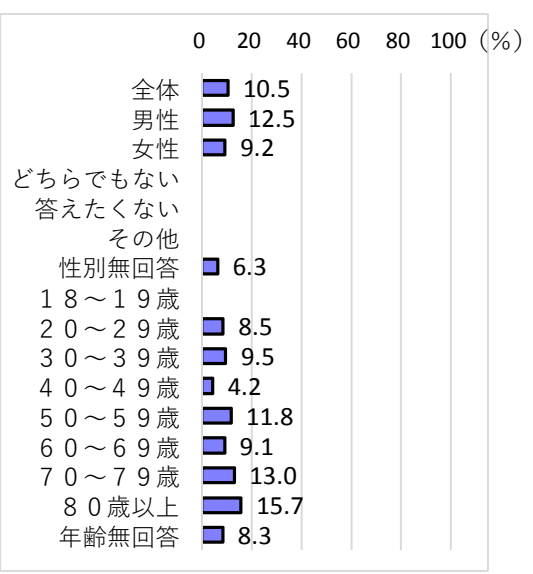
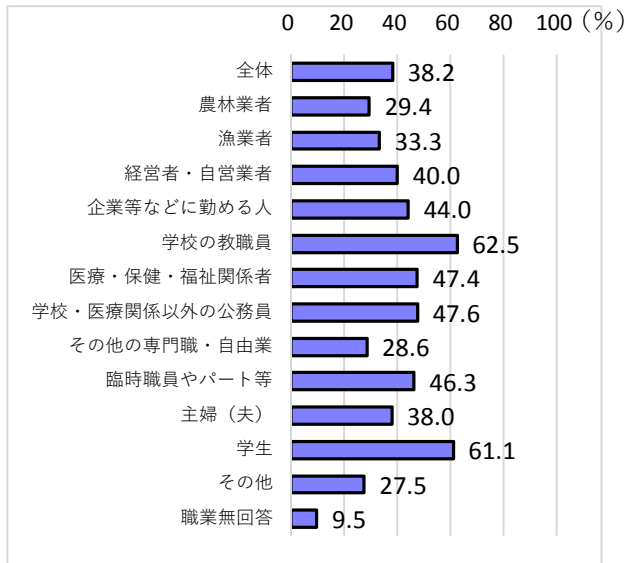
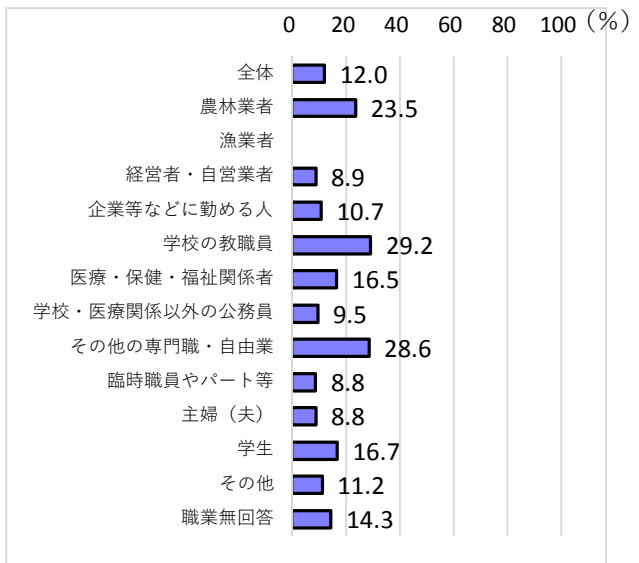


図16-1-3 外国人に関する人権上の問題点（職業別）

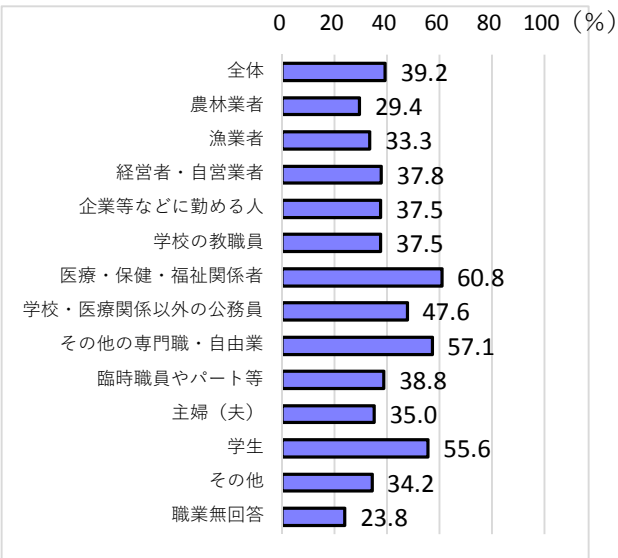
言葉や習慣などが違うので、社会に受け入れられにくいこと(嫌がらせを受けること)



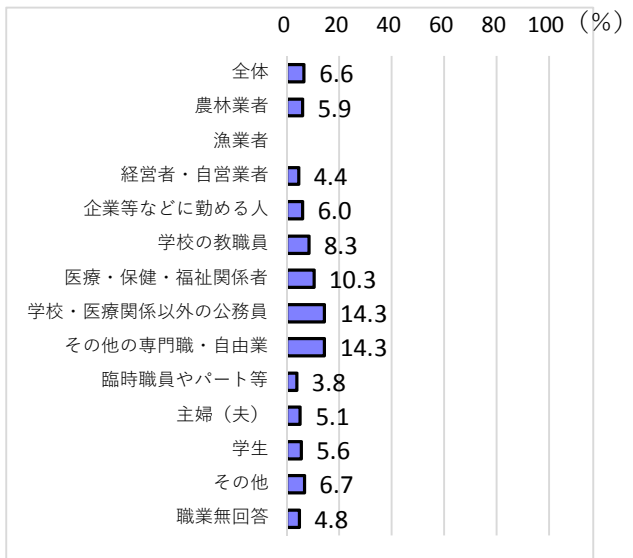
住宅を容易に借りることができないこと



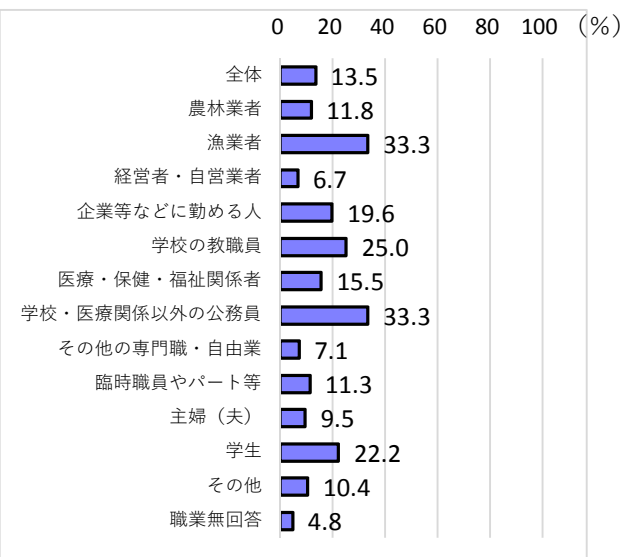
言葉が異なるため、保険・医療・福祉、防災、教育などの日常生活に必要な情報が得にくいこと



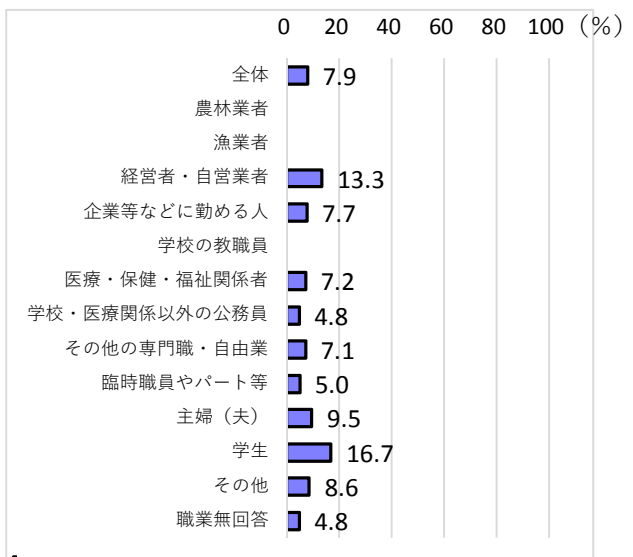
結婚問題で周囲の反対を受けること



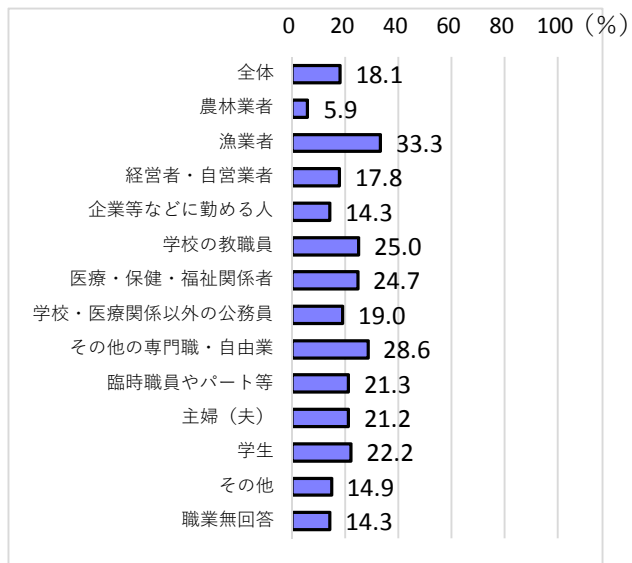
就職、職場で不利な扱いを受けること



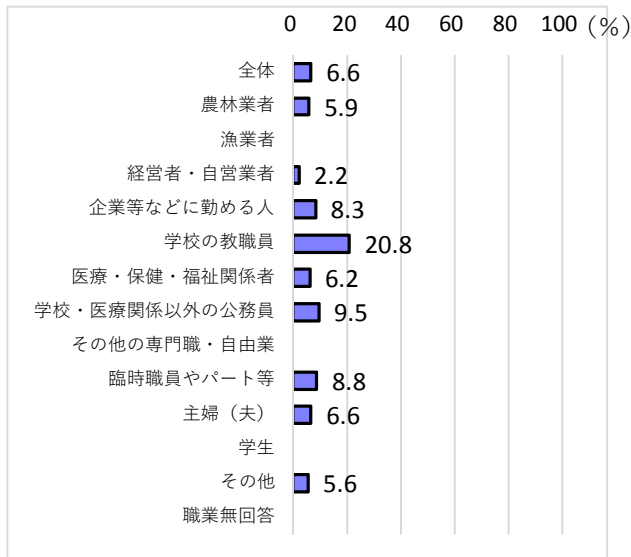
選挙など、制度面での制約を受けること



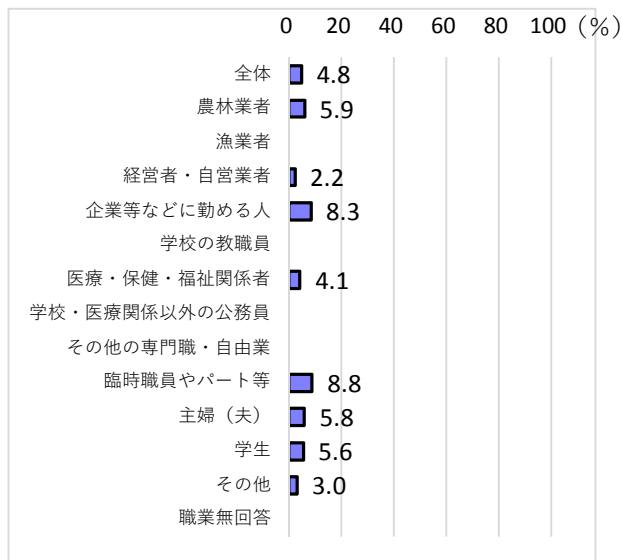
病院や公共施設等に外国語による表示が少ないこと



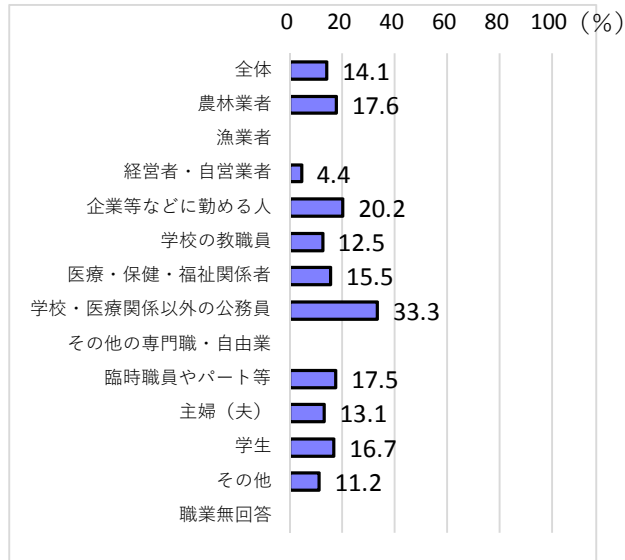
じろじろ見られたり、避けられたりすること



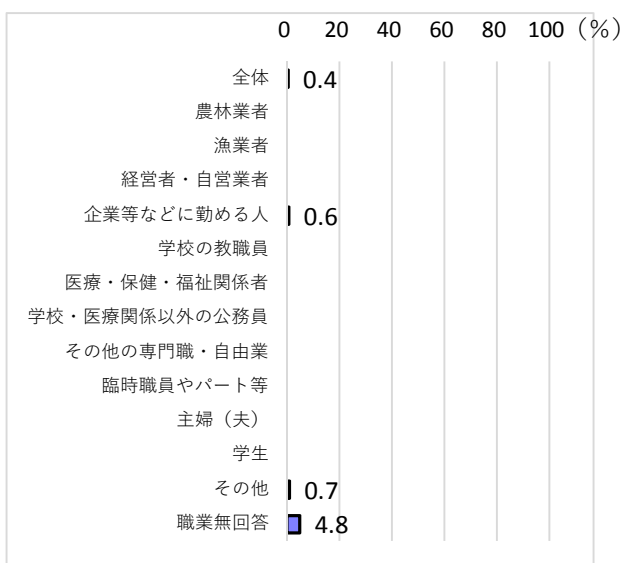
メールやインターネットでの悪質な書き込みや嫌がらせ、SNS上での個人情報の暴露・さらし行為



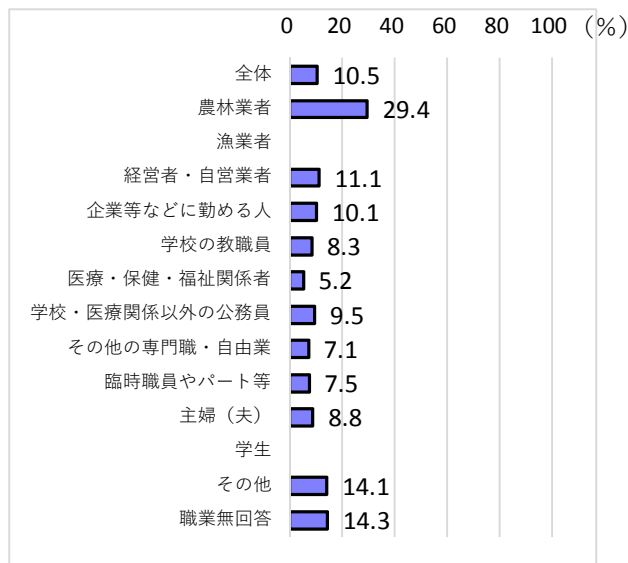
ヘイトスピーチ(特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動)を伴うデモ等が行われること



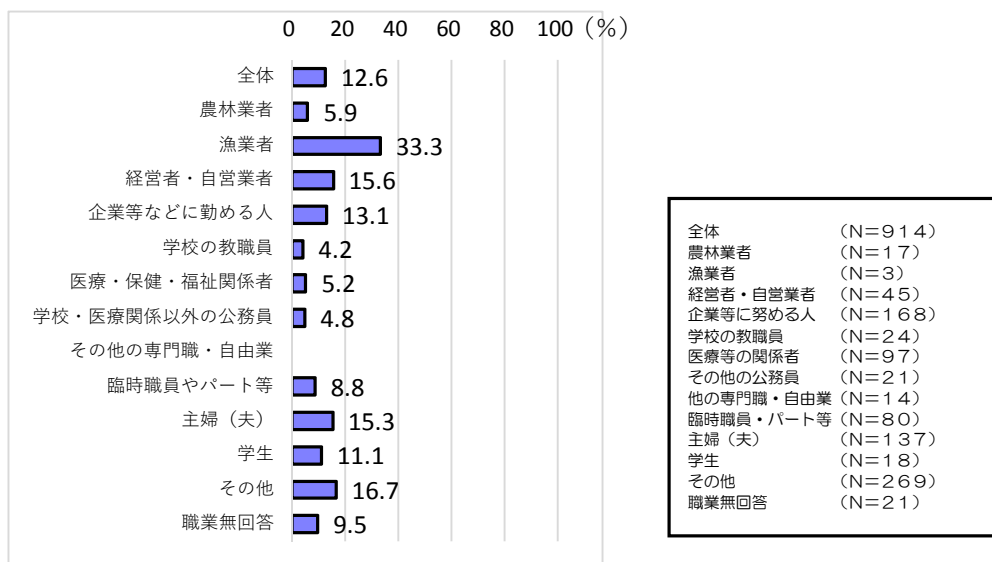
その他



特にない



わからない

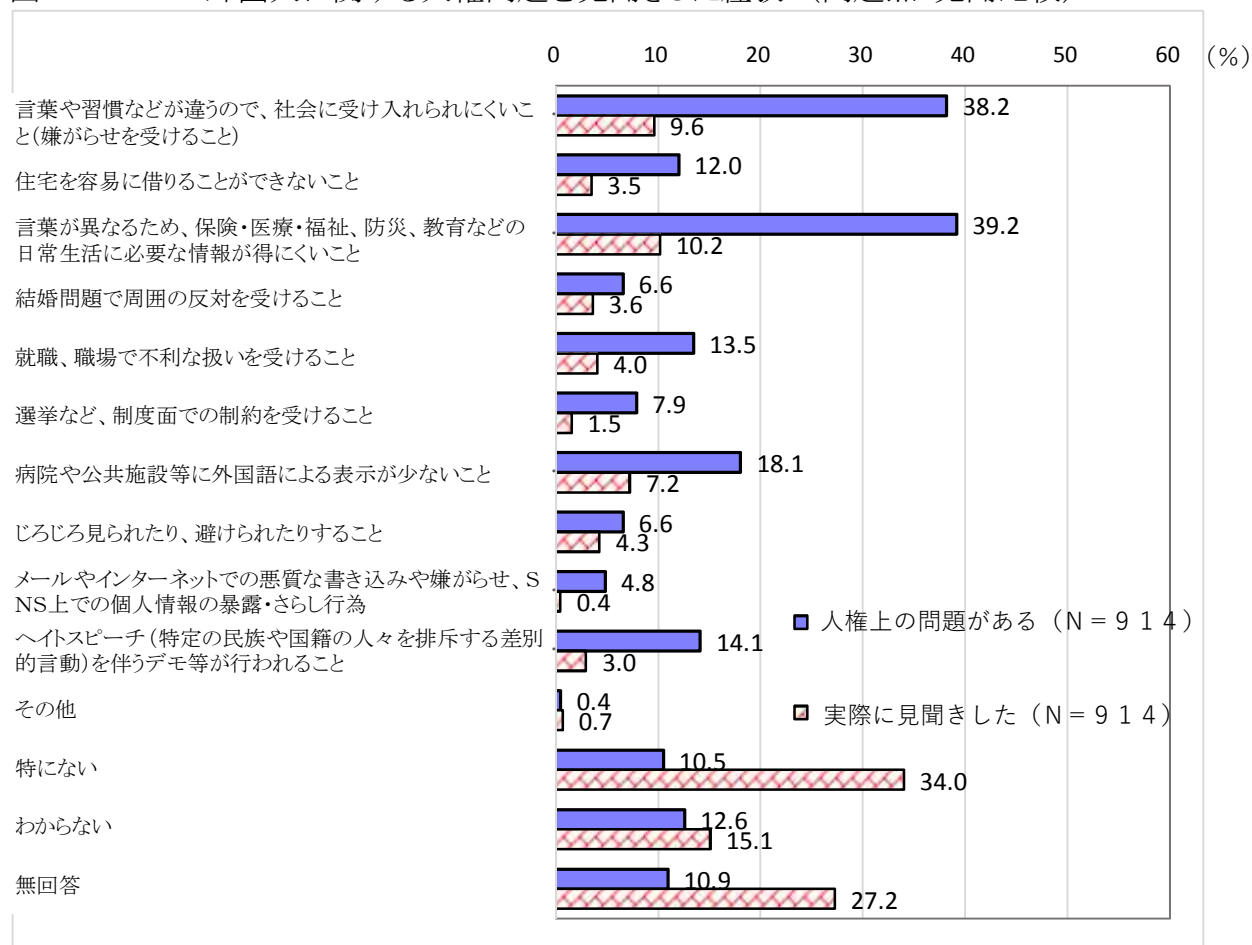


外国人に関する人権上の問題点について職業別にみると、大半の職業において「言葉や習慣などが違うので、社会に受け入れられにくいこと(嫌がらせを受けること)」の回答割合が最も高く、学校の教職員では、62.5%となっている。また、医療・保健・福祉関係者、その他の専門職・自由業は「言葉が異なるため、保険・医療・福祉、防災、教育などの日常生活に必要な情報が得にくいこと」の回答割合が最も高く、医療・保健・福祉関係者は60.8%となっている。

(イ) 外国人に関する人権問題を見聞きした経験

問16 また、あなたが、過去5年間に、実際に見聞きしたものがありますか。(✓は3つまで)

図16-2-1 外国人に関する人権問題を見聞きした経験 (問題点・見聞比較)



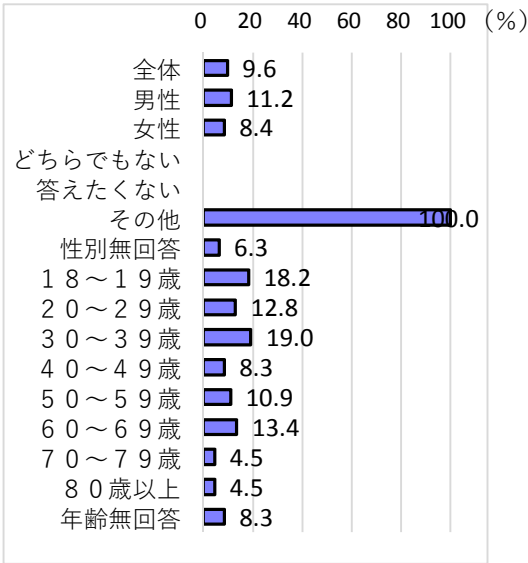
外国人に関する人権問題について「見聞きした経験」をみると、「言葉が異なるため、保険・医療・福祉、防災、教育などの日常生活に必要な情報が得にくいこと」と答えた人が10.2%、次いで、「言葉や習慣などが違うので、社会に受け入れられにくいこと(嫌がらせを受けること)」(9.6%)、「病院や公共施設等に外国語による表示が少ないこと」(7.2%)、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」(4.3%)、「就職、職場で不利な扱いを受けること」(4.0%)と続いている。

また、外国人に関する人権問題について「見聞きした経験」と「問題点」を比較すると、具体的な事象を表す選択肢の回答割合については、すべて「見聞きした経験」が、「問題点」の回答割合を下っている。「じろじろ見られたり、避けられたりすること」については、「見聞きした経験」の回答割合と「問題点」の回答割合が、2.3ポイント差と近似値になっている。



図16-2-2 外国人に関する人権問題を見聞きした経験（性・年齢別）

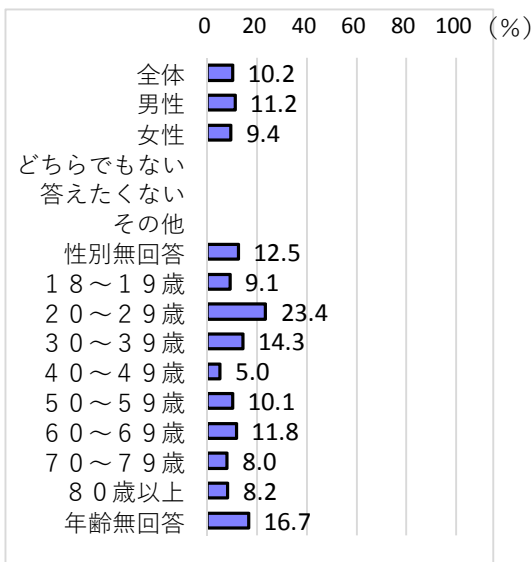
言葉や習慣などが違うので、社会に受け入れられにくいこと(嫌がらせを受けること)



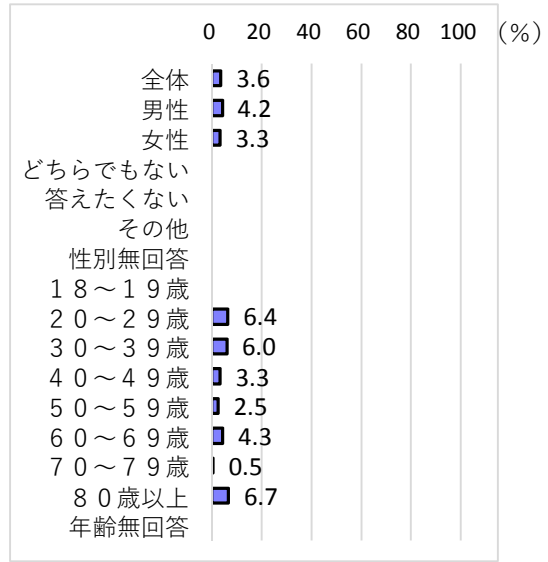
住宅を容易に借りることができないこと



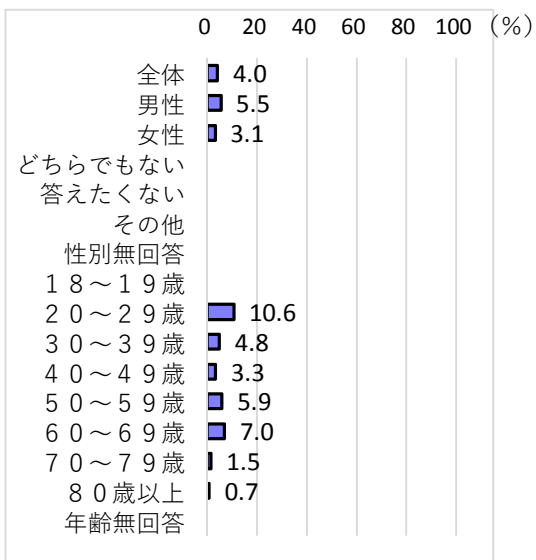
言葉が異なるため、保険・医療・福祉、防災、教育などの日常生活に必要な情報が得にくいこと



結婚問題で周囲の反対を受けること



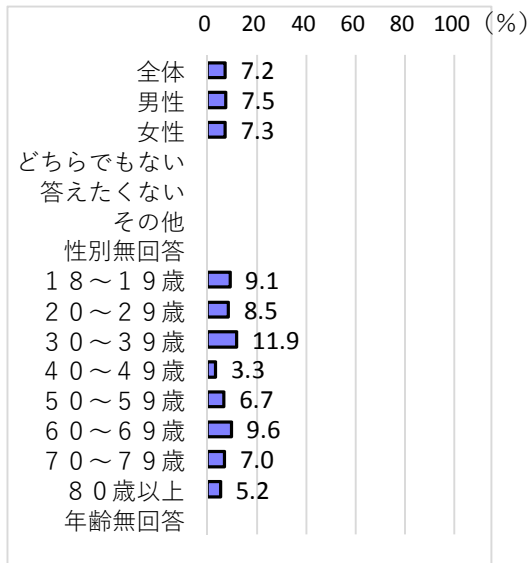
就職、職場で不利な扱いを受けること



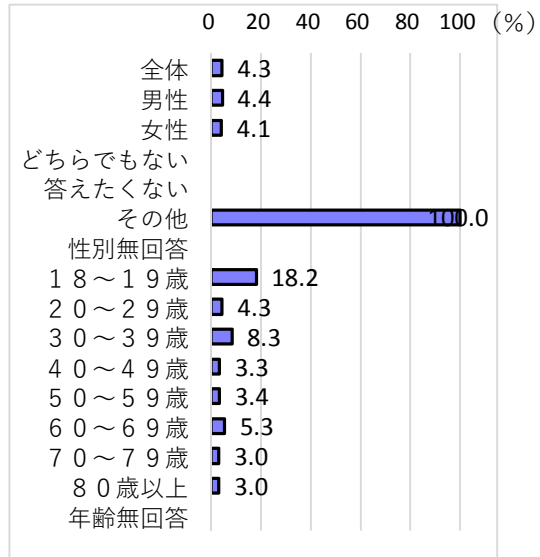
選挙など、制度面での制約を受けること



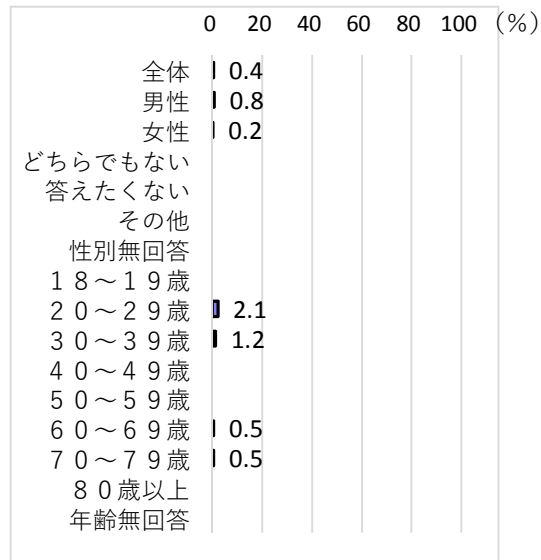
病院や公共施設等に外国語による表示が少ないこと



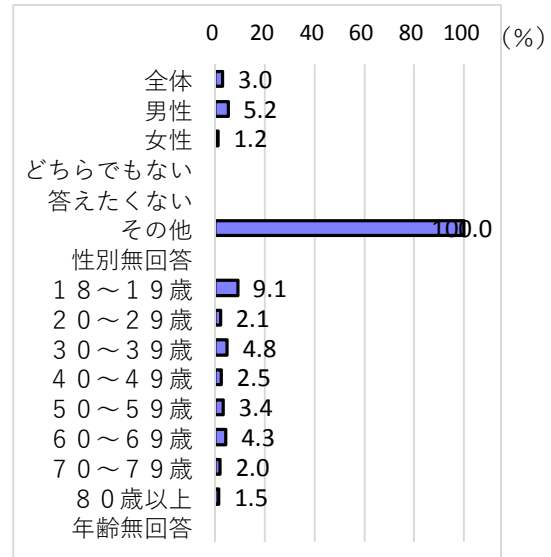
じろじろ見られたり、避けられたりすること



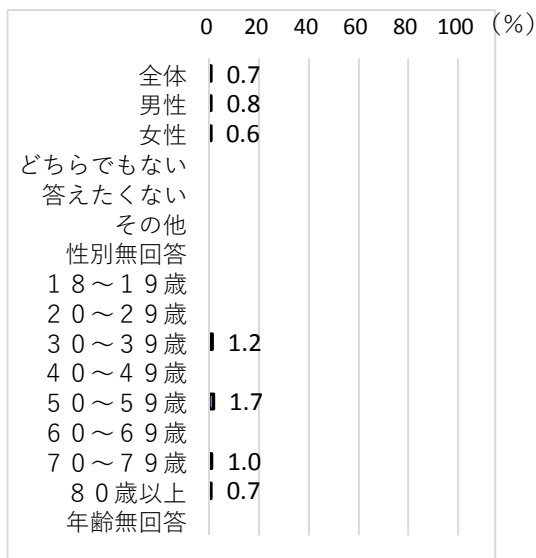
メールやインターネットでの悪質な書き込みや嫌がらせ、SNS上での個人情報の暴露・さらし行為



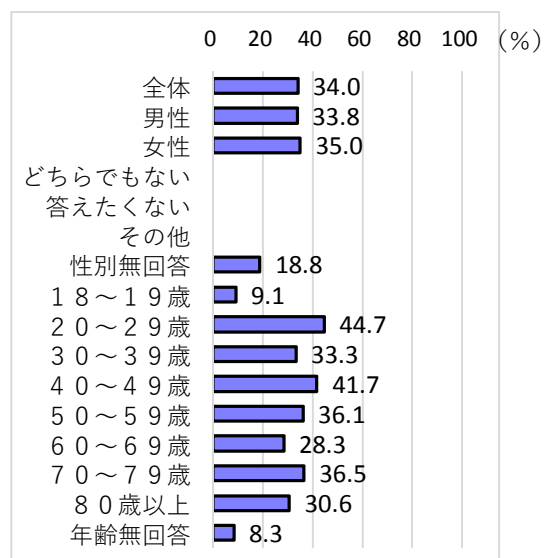
ヘイトスピーチ(特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動)を伴うデモ等が行われること



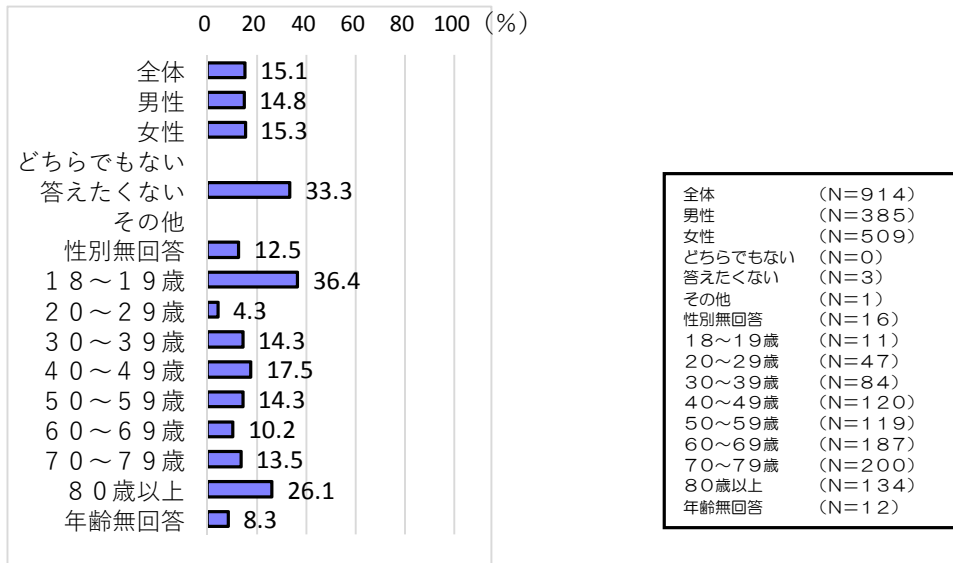
その他



特になし



わからない

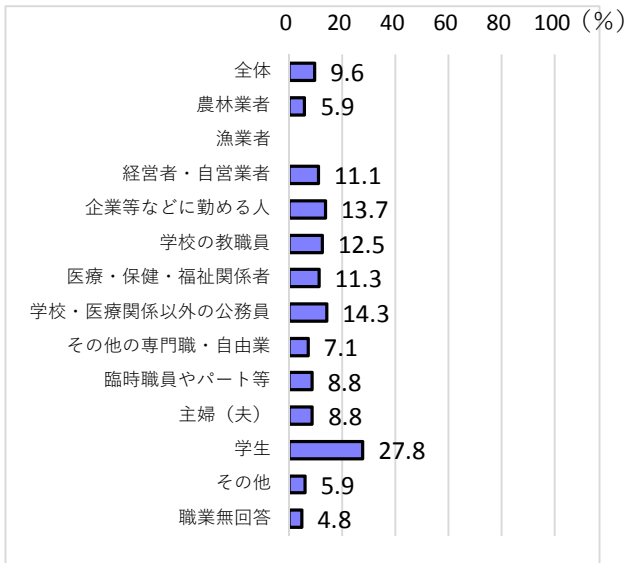


外国人に関する人権問題の「見聞きした経験」について性別にみると、男女ともに「言葉が異なるため、保険・医療・福祉、防災、教育などの日常生活に必要な情報が得にくいこと」の回答割合が最も高くなっている。

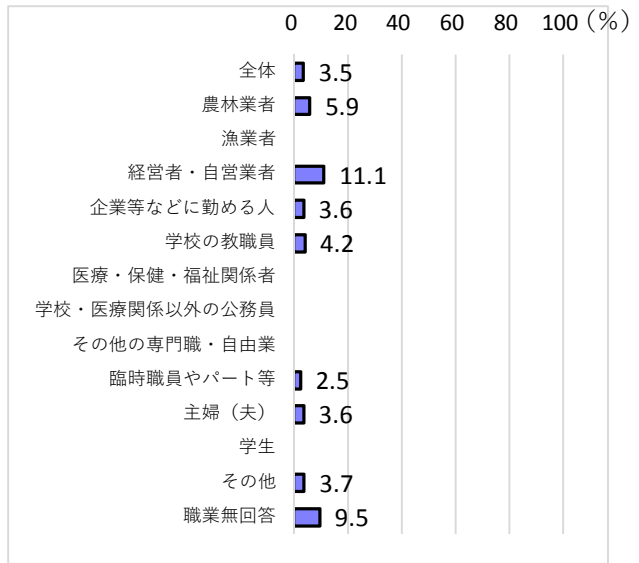
年齢別にみると、20歳～29歳、70歳以上では「言葉が異なるため、保険・医療・福祉、防災、教育などの日常生活に必要な情報が得にくいこと」の回答割合が最も高く、それ以外の年齢では「言葉や習慣などが違うので、社会に受け入れられにくいこと(嫌がらせを受けること)」の回答割合が最も高くなっている。

図16-2-3 外国人に関する人権問題を見聞きした経験（職業別）

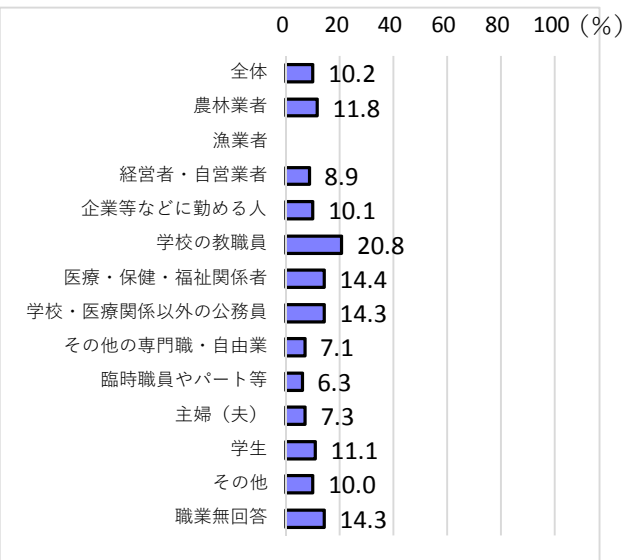
言葉や習慣などが違うので、社会に受け入れられにくいこと(嫌がらせを受けること)



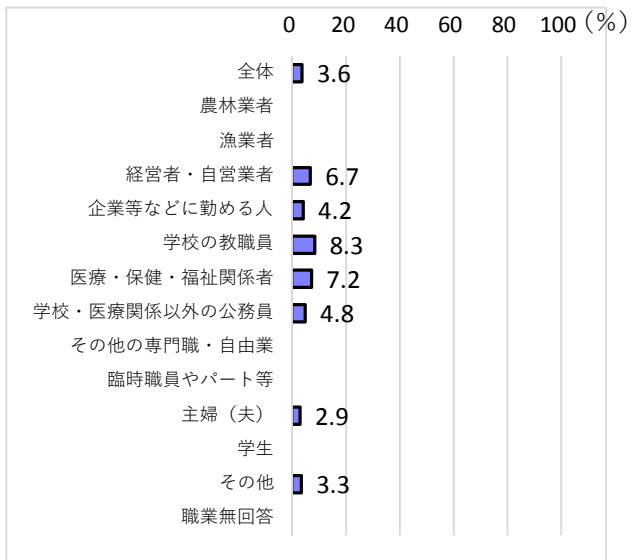
住宅を容易に借りることができないこと



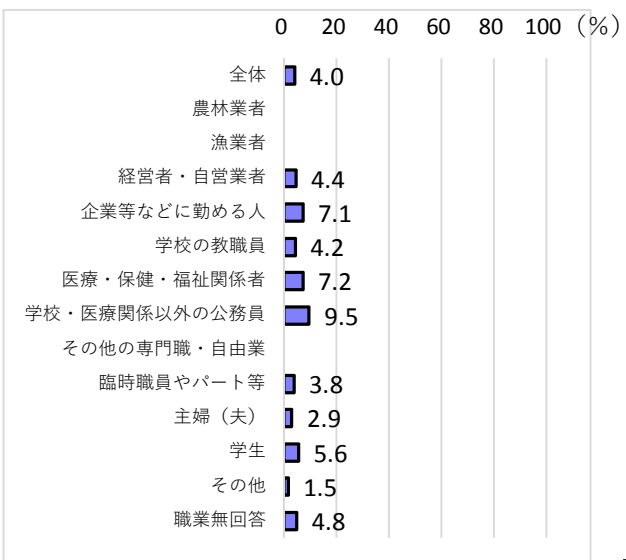
言葉が異なるため、保険・医療・福祉、防災、教育などの日常生活に必要な情報が得にくいこと



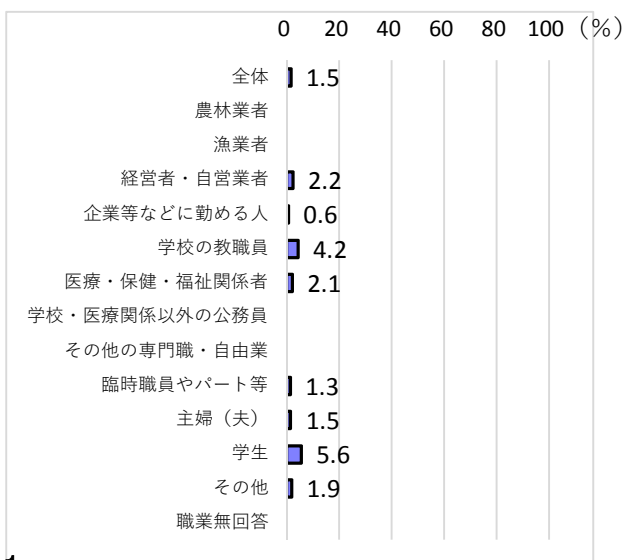
結婚問題で周囲の反対を受けること



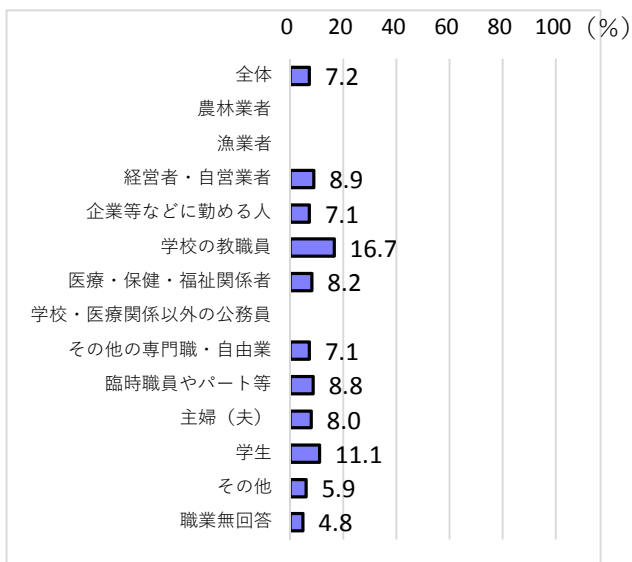
就職、職場で不利な扱いを受けること



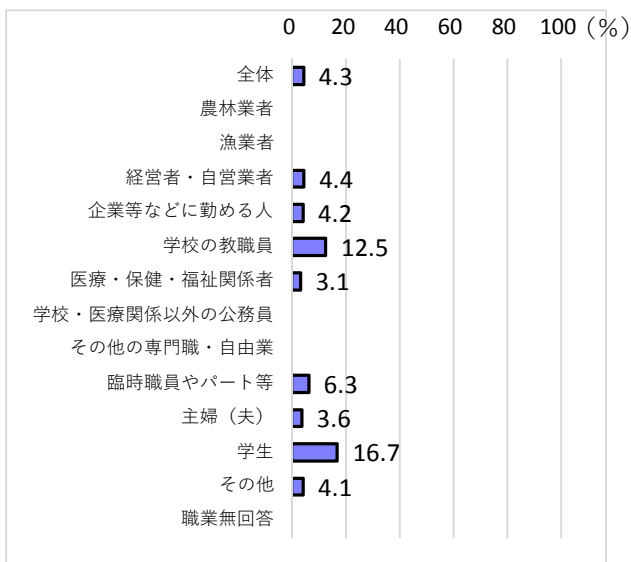
選挙など、制度面での制約を受けること



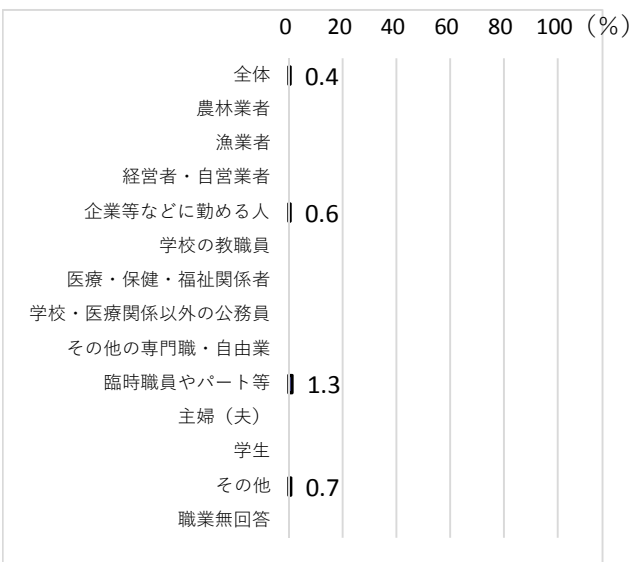
病院や公共施設等に外国語による表示が少ないこと



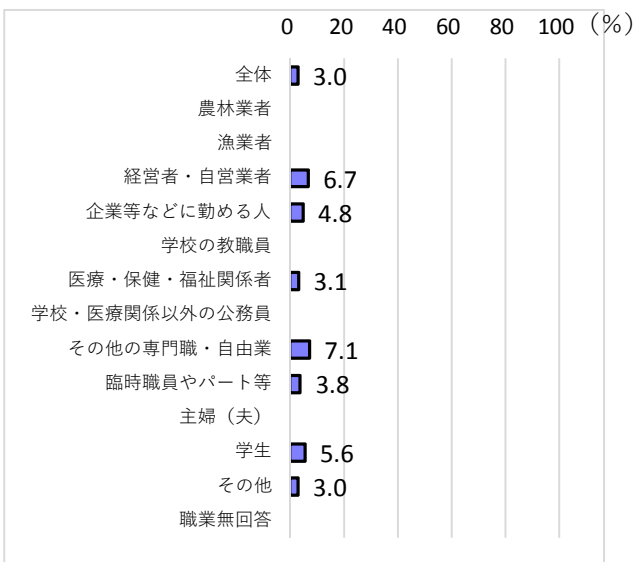
じろじろ見られたり、避けられたりすること



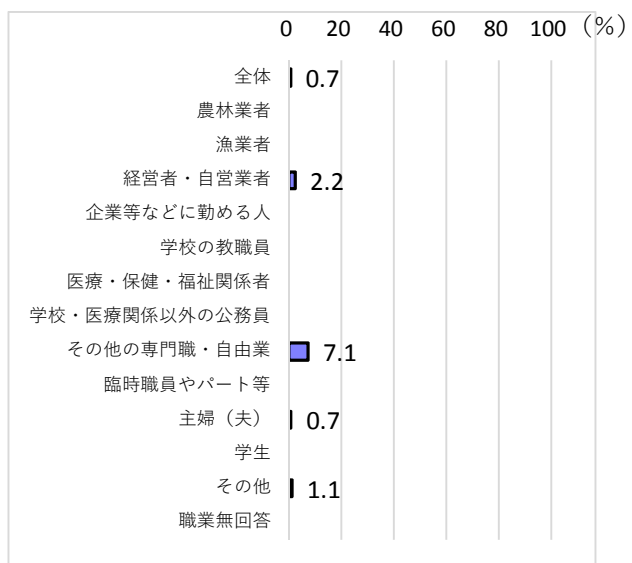
メールやインターネットでの悪質な書き込みや嫌がらせ、SNS上での個人情報の暴露・さらし行為



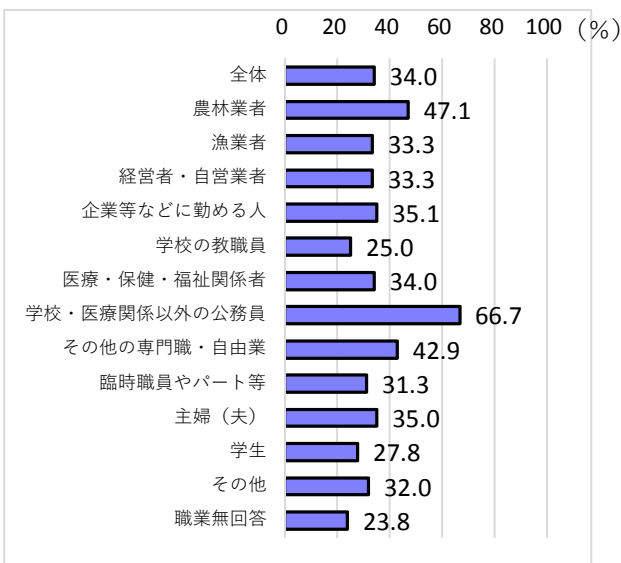
ヘイトスピーチ(特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動)を伴うデモ等が行われること



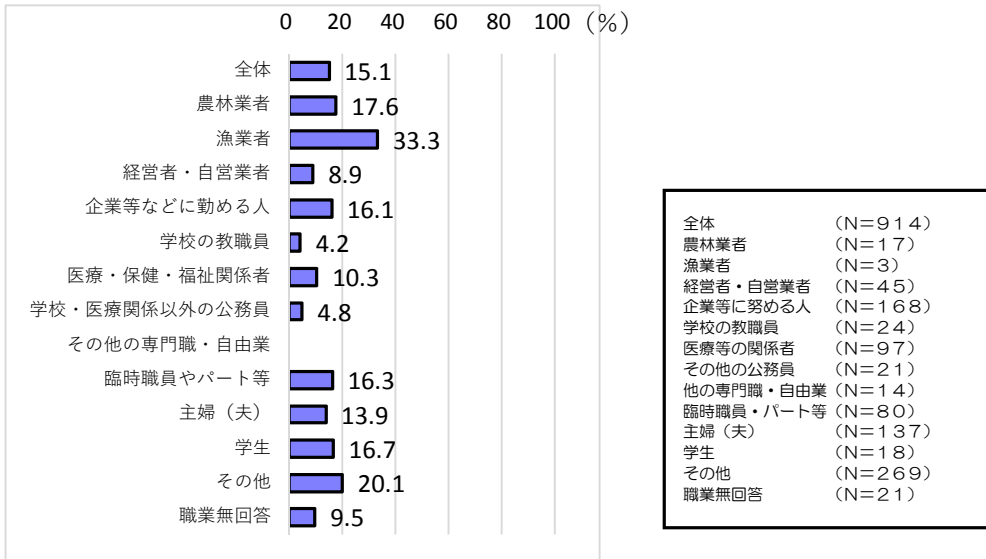
その他



特にない



わからない



外国人に関する人権問題の「見聞きした経験」について職業別にみると、大半の職業において、「言葉や習慣などが違うので、社会に受け入れられにくいこと(嫌がらせを受けること)」の回答割合が最も高く、学生は27.8%となっている。また、農林業者、学校の教職員、医療・保健・福祉関係者では「言葉が異なるため、保険・医療・福祉、防災、教育などの日常生活に必要な情報が得にくいこと」の回答割合が最も高くなっている。